

光友地域

人口： 4,223 人（1,499 世帯）

・ 65 歳以上 1,488 人

（うち一人暮らし 261 世帯）

・ 18 歳以上 65 歳未満 2,196 人

・ 18 歳未満 539 人

（平成 29 年 4 月現在）

緑あふれる自然 つなぎ合う人 共にすみよい地域づくりを
目標に向かって進もう！

1 ひと・資源

行政区長		13 名
公民館長		13 名
民生委員児童委員 10 名		
主任児童委員	0.5 名	
福祉委員 21 名		
見守り連絡員 26 名		
福祉部会 0 カ所		
福祉ネットワーク 4 カ所		
ふれあいサロン 10 カ所		
福祉のつどい 0 カ所		
公民館 21 カ所（うち公営 1 カ所）		
子育て拠点 0 カ所（月 0 回開催）		
避難施設 公設 5 カ所・私設 25 カ所		
医療 病院 3 カ所・歯科 3 カ所		
福祉事業所 17 カ所（高 10 障 4 子 3）		
社会福祉法人 1 法人		

（平成 29 年 10 月現在）

3 地域懇談会から

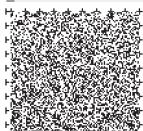
■地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 28 年 12 月 13 日 19 時～21 時 参加者：22 名

■地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- ・祭りを維持していくのが結構大変で一部の方に負担がかかる。新しい形を模索している。
- ・しめ縄を作れる後継者がいなくなった。
- ・昔は家族総出で行事に参加していた。小さい頃から行事に関わり合って慣れ親しんできていないと良さがわからない。
- ・神社がなぜ近所にあるのか教えていかないといけない。由来がわからないと伝承は難しい。
- ・光友地区は白木地区や北山地区と違い、区が分かれている。行事はまとまりがない。
- ・各区でたくさんの行事があり、年間行事にしても方針が決めにくい。
- ・若い人は勤めが多く、地域外へ出て行ってしまう。
- ・少子化が進んで子どもの数が減少しており、子ども会活動はクリスマス会だけで、活動に限界を感じる。
- ・ふれあいきいきサロンは準備が大変だが、参加者が喜ばれて嬉しい。見守りにつながるから良い。
 - ・ふれあいきいきサロンの男性参加が少ないように思う。男性の参加率を上げることが課題。



2 地域のとりくみ

■光友地区地域振興会議

○活動の拠点施設：立花支所庁舎南別館

行政区長会	民生委員児童委員連絡協議会	交通安全協会光友支部
振興会議	立花小学校 PTA	立花中学校 PTA
消防団光友分団	光友地区老人クラブ	JA 女性部
光友駐在所	個人	

■光友地区地域振興計画

【平成 25 年 4 月】

基本目標	基本方針
I 安心安全のまち光友づくり	○災害に強い町 ○暮らしを支える道路交通網の整備と交通安全対策 ○利便性の高い情報発信と活用促進 ○竹炭を活用した「光友安全宣言」の農産物栽培 ○防犯対策
II 自然との共生で、緑あふれ心なごむ地域づくり	○美しい川と安全な川を取り戻す（景観の形成・安全性の向上） ○公園・緑地の維持活用
III 高齢者のんびり、子どもも男も女も元気で、人にやさしい地域づくり	○高齢者の生きがいづくり ○支え合い、声かけ合う安心な地域 ○地域全体で子どもを育てる取り組み ○世代間交流に多くの区民が参加する地域づくり
IV 伝統文化を活かした豊かな地域づくり	○地域の伝統行事、文化の継承 ○観梅会の維持・充実 ○地域の宝（資源・財産）の活用

地域を支える人の様子

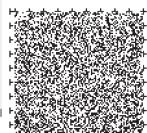
- ・民生委員・区長・衛生委員の交代のとき、なり手が少ない。
- ・高齢者の二人暮らしで妻が亡くなってしまった夫が生活困難になったとき、民生委員や社協、福祉関係者の支援で施設に入ることができて良かった。
- ・高齢の方を週1回見守る仕組みを作り、安否確認を行っている。
- ・福祉委員の設置、福祉ネットワーク推進委員会を設置し、毎月の区における集会時に情報交換を行う。福祉委員という役割で訪問がしやすくなった。
- ・民生委員の担当割が行政区割りと違うので、他の地区だとなかなかわかりにくいことがある。
- ・地区の懇談会の機会を増やすいろいろ話ができるよいと思う。
- ・スーパーまで送迎することも外出の機会を作るのに良い。また自分で選択して買い物が出来る。

地域の課題

- ・分別収集や溝さらに若い人たちはあまり出てこない。高齢者が多い。
- ・車社会になり、道端で近所の人と会う機会が少なく、話す機会がほとんどない。
- ・高齢になっても車の運転をされている方も多いが、車がないと何もかもできない環境にある。
- ・市、県営住宅が地域にあるが、出入りが激しく近隣に誰が住んでいるかわからない。

地域のこれから

- ・ふれあいきいきサロンなど立ち上げるために人材を集めることが重要。支援者を育てることが大事。
- ・車の運転ができなければ、外出や買い物に困る。移動販売車の運行や福祉タクシーを主要道路以外の小さな道まで通すことが必要。



北山地域

人口： 1,967 人（ 678 世帯）

・ 65 歳以上 670 人

（うち一人暮らし 97 世帯）

・ 18 歳以上 65 歳未満 1,020 人

・ 18 歳未満 277 人

（平成 29 年 4 月現在）

自然を生かし、子どもや高齢者にやさしい地域づくり

1 ひと・資源

民生委員児童委員	5 名
主任児童委員	0.5 名
福祉委員	13 名
見守り連絡員	27 名
福祉部会	1 カ所
福祉ネットワーク	4 カ所
ふれあいサロン	4 カ所
福祉のつどい	1 カ所

行政区長	4 名
公民館長	4 名

公民館	11 カ所（うち公営 0 カ所）
子育て拠点	1 カ所（月 25 回開催）
避難施設	公設 3 カ所・私設 7 カ所
医療	病院 1 カ所・歯科 3 カ所
福祉事業所	5 カ所（高 0 障 0 子 5）
社会福祉法人	0 法人

（平成 29 年 10 月現在）

3 地域懇談会から

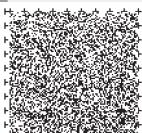
■ 地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 28 年 12 月 5 日 19 時～21 時 参加者：38 名

■ 地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- ・ 夏祭りなど大きな行事は、振興会議の役員、行政区長、隣組長など役職の人が参加している。
- ・ 壮年期の参加が少ない。仕事があるので行事に参加できない。
- ・ 地域の行事を維持していくのが難しい。
- ・ 以前に比べると村祭りが減り、周りの意欲も減ってきたと思う。
- ・ 昔と生活が違ってきており、祭り事や行事を減らそうとばかりの意見が出る。
- ・ お盆に納骨堂の草切りをしていたが、人手が足りず出来なかった。
- ・ 青年部が主催していたグラウンドゴルフ大会がある。小学生からお年寄りまでみんなが参加している。今は青年部がなくなり、隣組長が世話をしている。
- ・ 年々高齢化が進み、何をするにも同じ人に負担がかかり大変である。やらないといけないのでしているだけ。もう少し若い人が地域行事に参加してほしい。
- ・ 子ども会、祭りが盛んだったが子どもの数が減ってきた。
 - ・ 世帯数が増えても減っても以前と違って、人づきあいのしにくさがある。
 - ・ 新しい行事を増やすのではなく、今ある行事を維持し、大事にしていく。



2 地域のとりくみ

■北山地区地域振興会議

○活動の拠点施設：北山コミュニティセンター

行政区長	隣組長	交通安全協会北山支部
民生委員児童委員連絡協議会	筑南小学校 PTA	筑南中学校 PTA
北山レディース	商工会北山支部	立花消防団北山分団
箱わな会	北山駐在所	

■北山地区地域振興計画

【平成 27 年 3 月】

基本目標	主要施策
I 人にやさしい地域	(1) 住民の健康 (2) 子育て支援対策 (3) 高齢者福祉・介護対策 (4) 地域住民の交流・生きがい対策
II 安心・安全な地域	(1) 環境・景観対策 (2) 地域の情報網の拡充 (3) 夜間照明の充実・危険箇所の解消 (4) 防災組織の整備や防災訓練
III 生活基盤の充実した地域	(1) 空き家を生かした定住者促進対策 (2) 道路整備 (3) 生活基盤の整備
IV 伝統・文化に満ちた地域	(1) 観光の振興 (2) 文化、伝統芸能の振興（復活）

地域を支える人の様子

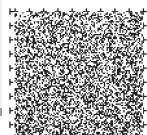
- ・民生委員と区長とが一緒に自宅を訪問し、顔を覚えてもらうことからはじめたい。
- ・区長を福祉委員として委嘱し活動を始めているので、軌道にのると情報が入るのではないか。
- ・支援が必要だと思う人が拒否をされる。絶対に世話にならないと言われるとどうしようもない。
- ・関わりを持たないといけないが、入り込みすぎてもいけないので難しい。
- ・ふれあいきいきサロンを月1回公民館で行っている。お世話をしているのは地域の方。
- ・高齢になると自我が強くなられ、なかなか受け入れてもらえないなかつたが、回数を重ねると訪問に慣れてこられ、今は待っていてください。

地域の課題

- ・独居の人が多く、配り物のときに会っての会話ぐらいで近所づきあいがなかなか出来ない。
- ・隣の人が何をしているのか、どこに勤めているのか、昔のように祭りや行事ごとを盛んにし、交流しないと遠縁になってしまい段々とさみしくなる。（活気がなくなる）
- ・子どもを通して交流が深まると思うが、その子どもが少ないので盛り上がらない。
- ・神社・天満宮などの世話役を回しているが、新しい人たちは参加しない。

地域のこれから

- ・コミュニティセンターを昼間開放して、誰でもゆっくり出来る場にしたいが、管理は誰がするかという問題がある。
- ・行事に行きたくても行けない理由を解決する。交通手段がない、トイレを洋式にするなど。
- ・一人暮らしの方の家に回覧板や配布物などをポストに入れるのではなく、手渡しすると顔を見ることになり、声掛けの原点や近所づきあいにつながるのではないか。手渡すことを全地区に広めることで北山全体の見守り活動につながるのではないか。



白木地域

人口： 1,527 人（ 547 世帯）

・ 65 歳以上 701 人

（うち一人暮らし 88 世帯）

・ 18 歳以上 65 歳未満 706 人

・ 18 歳未満 120 人

（平成 29 年 4 月現在）

地域を活かした、人にやさしいくらしづくり

1 ひと・資源

民生委員児童委員	5 名
主任児童委員	0.5 名
福祉委員	0 名
見守り連絡員	30 名
福祉部会	0 カ所
福祉ネットワーク	0 カ所
ふれあいサロン	4 カ所
福祉のつどい	0 カ所

行政区長	3 名
公民館長	3 名

公民館	9 カ所（うち公営 0 カ所）
子育て拠点	0 カ所（月 0 回開催）
避難施設	公設 3 カ所・私設 18 カ所
医療	病院 1 カ所・歯科 0 カ所
福祉事業所	4 カ所（高 4 障 0 子 0）
社会福祉法人	0 法人

（平成 29 年 10 月現在）

3 地域懇談会から

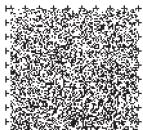
■地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 29 年 1 月 17 日 19 時～21 時 参加者：20 名

■地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- ・空き家が増えた。放火の危険もあるので防犯の観点からも壊してほしい。
- ・先祖代々住んでいるので、みんな顔見知りである。子どもたちが地元から転居していく。
- ・80 代でも現役で働き、40、50 代は会社勤めで時間が合わない。
- ・公民館が古くて 2 階にあったり、トイレが和式、畳で椅子もない等、ふれあいきいきサロンなどを開くのが厳しい公民館もある。公民館まで遠く行けない。
- ・収穫祭やフェスティバルなど広い範囲で行うイベントでは若者の参加が多い。
- ・行事に協力してくれる方がだんだん少なくなっている。
- ・昔は行事の中で料理や鉢盛などを出して世話が大変だった。今は形を変えながら行事を守り、簡略化しても継続していきたい。
- ・高齢化していても世話する人がいないので老人クラブが解散している。
 - ・今年度ふれあいきいきサロンを 3 か所立ち上げた。月 1 回公民館に寄ってもらっている。



2 地域のとりくみ

■白木地区地域振興会議

○活動の拠点施設：白木コミュニティセンター

行政区長	地区区長	JA 女性部	JA 青年部	しらき青空の会
立花消防団白木分団	筑南小学校 PTA	筑南中学校 PTA	青少年育成地区民会議	JA 白木支店
八女市商工会	白木郵便局	交通安全協会白木支部	ふむふむ	夢あいグループ
ほたる会	夢たちはなビレッジ	スポーツフェスティバル	筑南中学校	筑南小学校
少年野球	民生委員児童委員連絡協議会	しらきんこ管理委員		

■白木地区地域振興計画

【平成 26 年 4 月】

基本目標	主要施策
I 高齢者・子ども、人にやさしいくらし	(1) 高齢者福祉・介護対策 (2) 子育て支援対策
II 地域資源を活かしたくらし	(1) 観光の振興 (2) 産業の振興 (3) 白木コミュニティセンターの活用 (4) 旧白木小学校の活用
III みんなで支え合うくらし	(1) 地域住民の交流・健康増進・改革 (2) 定住促進対策
IV 安全安心なくらし	(1) 夜間照明・危険箇所の解消 (2) 防災組織の整備・防災訓練 (3) 道路・河川整備 (4) 地域情報網の充実

地域を支える人の様子

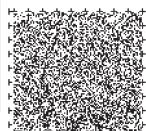
- ・ふれあいいきいきサロンなどの世話をするのが大変。申請などの手続きが大変。手続きを簡素化していく。
- ・消防団や以前あった若妻会などの交流の機会が少なくなった。
- ・民生委員。仕事をしていると時間がないので、夜に訪問する。夜だと鍵を閉めて開けてくれないことがある。高齢者と生活時間が合わないのが課題である。
- ・行政区長、民生委員が見守りをしている。サロンなどの機会に見守りをしてはどうか。

地域の課題

- ・空き家が多い。取り壊される家もあるが数軒そのままになっている。
- ・昼3時ごろ訪問販売のような人がウロウロしているのをよく見かける。駐在所に伝えているが、心配である。
- ・社会福祉協議会の方からスーパーと提携して買い物支援など働きかけてほしい。
- ・小学校が統合し、スクールバスが運行されるようになったが若い人は出て行ってしまう。
- ・子育てに関して家庭機能が弱体化している。子どもが放任になっているところもある。地域で子どもを育てるというが、地域での支援による子育てとは何か。
- ・配食サービスやヘルパーなど福祉の情報の提供をもっとしてほしい。

地域のこれから

- ・地域ぐるみでお互いに気にかけながら、つながりを持つことがサービス利用や問題の早期発見につながる。



辺春地域

人口： 1,901 人 (725 世帯)

・ 65 歳以上 864 人

(うち一人暮らし 138 世帯)

・ 18 歳以上 65 歳未満 889 人

・ 18 歳未満 148 人

(平成 29 年 4 月現在)

1 ひと・資源

民生委員児童委員 8 名

主任児童委員 0.5 名

福祉委員 7 名

見守り連絡員 37 名

福祉部会 0 カ所

福祉ネットワーク 1 カ所

ふれあいサロン 4 カ所

福祉のつどい 0 カ所

行政区長

5 名

公民館長

5 名

公民館 16 カ所 (うち公営 0 カ所)

子育て拠点 0 カ所 (月 0 回開催)

避難施設 公設 4 カ所・私設 27 カ所

医療 病院 1 カ所・歯科 0 カ所

福祉事業所 7 カ所 (高 6 障 0 子 1)

社会福祉法人 2 法人

(平成 29 年 10 月現在)

3 地域懇談会から

■地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 29 年 1 月 20 日 19 時～21 時 参加者：33 名

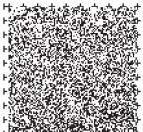
■地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- ・勤め人は朝家を出て行って、高齢者だけが集落に残っている。子どもはない。
- ・近所付き合いは良く、電気が点かないなどがあったときは近所の人が確認・交換に行ってくれている。
- ・車での移動が多く、人と会う機会が少ない。特に若い人には会わない。
- ・行事に参加する人達がだんだんと少なくなり、行事の世話をする人は一人で何役も。
- ・防災訓練（5月）花見（150 名くらい参加）ホタル祭りを行っている。
- ・行事は合同で行ったり、縮小して継続していく工夫をしている。
- ・お年寄りも行事の中に参加して、元気を保つことも大切。
- ・少子高齢化。一人暮らしの方の集いの場としてふれあいきいきサロンを開催して今年で 10 年目になる。
- ・ふれあいきいきサロンへ男性の参加が少ないので男性の参加が増えれば良いなと思う。
- ・みんなに協力していただきながら同世代の集まる場を作った。みんな心待ちにしており、これからも居場所づくりをしてほしい。女性 4、5 人寄って公民館で健康体操をしている。
- ・閉じこもりがないようふれあいきいきサロン活動をしていきたいが、スタッフがいない。協力者がほしい。若い後継者がほしい。

地域を支える人の様子

- ・民生委員が地区をまたがっているので区ごとにしてもらうとわかりやすい。



2 地域のとりくみ

■NPO 法人辺春地域振興会議

○活動の拠点施設：辺春ふれあいセンター

行政区長	消防団辺春分団	立花小学校 PTA	立花中学校 PTA	辺春保育園
交通安全協会辺春支部	辺春駐在所	八女消防署立花分署	民生委員児童委員連絡協議会	JA 女性部辺春支部
JA 上辺春支店	八女市商工会辺春地区	老人クラブ辺春地区	辺春地区民体育祭実行委員会	辺春郵便局
松尾百姓村	REV	加工部会	有害鳥獣対策部会	

■辺春地域振興計画

【平成 26 年 3 月】

基本指針	主要施策（振興会議主体分を一部抜粋）
I 安全・安心の地域づくり	<ul style="list-style-type: none">・道路整備・危険箇所の解消（照明設置、自主防災活動日常訓練など）
II 地域住民がお互いを尊重し、助け合うコミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none">・高齢者福祉・介護対策（買い物困難者の援助、独居高齢者の見守りほか）・地域住民相互の交流（敬老会、辺春地区民体育祭、螢祭り）
III ゆとりある生活ができる農業・産業の確立	<ul style="list-style-type: none">・農業の振興（耕作放棄地の解消、農業を観光資源とする産業の振興ほか）・雇用場所の確保（施設跡地利用要望）・耕作放棄地の解消（竹林オーナー、猪・有害鳥獣被害防止ほか）

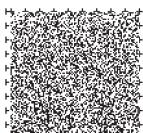
- ・民生委員で他集落をまわるが、どこまで入っていいのかわからない。なかなか他集落だと面識がないのでスムーズに行かない。区長から少しでも情報が欲しい。
- ・民生委員は月 1~2 回しか訪問できないため、見守りが必要な人は隣近所の人が協力してほしい。
- ・行政区長は一人暮らしの人の身内の連絡先まで知っておくようにしている。
- ・民生委員が住んでいない地域は行政区長に見守りをお願いしている。
- ・隣組長と民生委員の情報共有があれば良いと思う。

地域の課題

- ・災害のときのため地図で図上訓練を行った。避難場所を確認でき、どこに声かけをしたら良いか確認できたので良かった。
- ・熊本地震のとき、避難所を開設しすぐに動けた。一人暮らしの人が複数利用された。
- ・買い物が課題。昔は移動販売が来て公民館に寄っていた。見守りにもなると思う。
- ・公民館が 2 階なので災害があっても高齢者は階段を上がれない。

地域のこれから

- ・区長会議（自治会長、隣組長）に民生委員が入って月 1 回話し合う。みんなが動きやすいようにしているので、どこでも出来ると良いと思う。みんなで高齢者を見守っていくと民生委員の負担など減る。
- ・行事の中には地元から出た人が戻ってきて手伝ってくれるものもある。今後は地元から出た人と協力していく方が良い。
- ・それぞれの地区での活動（ふれあいきいきサロン、行事）や高齢者の見守りを、どのように地域で支援していくか、システム作りが課題。また各地区で行っている行事を次世代にどのようにつなげていくかが大きな課題である。地区の問題は自分の問題でもある（いずれ自分たちも行く道なのだから）



上陽地域

人口： 3,144 人（1,355 世帯）

・65 歳以上 1,238 人

（うち一人暮らし 270 世帯）

・18 歳以上 65 歳未満 1,574 人

・18 歳未満 232 人

（平成 29 年 4 月現在）

活気にあふれ、安らぎのあるまちづくり

1 ひと・資源

行政区長	10 名
公民館長	30 名
民生委員児童委員 15 名	
主任児童委員 2 名	
福祉委員 31 名	
見守り連絡員 133 名	
福祉部会 1 カ所	
福祉ネットワーク 2 カ所	
ふれあいサロン 11 カ所	
福祉のつどい 1 カ所	
公民館 30 カ所（うち公営 1 カ所）	
子育て拠点 0 カ所（月 0 回開催）	
避難施設 公設 10 カ所・私設 20 カ所	
医療 病院 3 カ所・歯科 1 カ所	
福祉事業所 27 カ所（高 8 障 17 子 2）	
社会福祉法人 2 法人	

（平成 29 年 10 月現在）

3 地域懇談会から

■地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 28 年 11 月 24 日 19 時～21 時 参加者：27 名

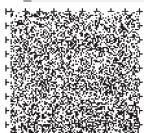
■地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- ・自治会主催のグラウンドゴルフ、川祭り、ほっけんぎょうなどを実施している。慰労会も楽しみに参加されている。
- ・子どもを中心とした夏祭りを行っている。
- ・公民館活動のかかし作りは、地区が 1 つにまとまり、非常に良かった。
- ・老人会での旅行を年 1 回計画し実施している。
- ・お宮（天満宮）の祭りや弘法さんを行っている。
- ・ふれあいきいきサロンにて高齢者の見守り活動を行っている。サロンを楽しみにされている方も多く、参加者のつながりができている。
- ・公民館行事として、餅つきを行い高齢者宅に配布している。
- ・川掃除や道路愛護を実施している。
- ・地域の行事と子どもの部活が重なり、子どもの参加が少ない。そのため、その親の参加も少ない。
 - ・イベント時は町外から人が集まるが、その時だけで普段は少ないのが現状。

地域を支える人の様子

- ・高齢者の見守りとして、畠仕事をされているときなどに声かけをするよう心がけている。



2 地域のとりくみ

■上陽地区まちづくり協議会（10支部）

○活動の拠点施設：上陽公民館

行政区長会	公民館連絡協議会	民生委員児童委員連絡協議会
青少年健全育成会	消防団上陽支団	上陽町ふよう会
上陽北汭学園 PTA	上陽校区福祉会	支部（10組織）

■上陽地区地域振興計画

【平成26年4月】

基本目標	主要施策
I 安心安全の維持	(1) 自然災害に対する安全対策 (2) 道路交通網整備と交通安全対策 (3) 防犯対策 (4) 水源の確保 (5) 行政との協働
II 高齢者の支援	(1) 高齢者の生きがい対策 (2) 高齢者の生活支援 (3) 健康づくり対策
III 子育ての支援	(1) 子どもの育つ環境
IV 伝統文化の継承	(1) 伝統行事、文化の継承
V 地域交流	(1) コミュニティ活動の促進
VI 産業振興	(1) 農業収入の安定化 (2) 後継者や担い手育成
VII 公共施設の活用	(1) 既存施設の活用 (2) 学校跡地の活用
VIII 上陽ならではの魅力づくり	(1) 観光資源の活用 (2) 情報通信発信と活用促進 (3) 都市農村交流

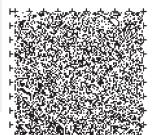
- ・民生委員の高齢者宅の見守り活動として、行政区長と情報共有し連携していくことが大切。また、民生委員のみの見守り活動も限界があるので、福祉委員に協力してもらっている。高齢者宅は夜早めに鍵をかけられることが多く、夕方早めの訪問を心がけている。
- ・一人暮らし高齢者は、日頃から仲良くされている人など誰かに頼ってあることも多く、その情報を把握しておくと支援につなげやすい。
- ・顔を合わせる機会を作ると関係性が出来るため、行事もスムーズにいく様に感じる。

地域の課題

- ・若い人の働く場がないため、上陽地域外に出て行かれるケースも多い。仕事の出来る環境づくりが必要である。戸数や人口も減少している。
- ・若い人との近所づきあいは希薄である。
- ・高齢者が多くなり、近所づきあいや連絡はうまくいっている反面、体を動かす行事は、参加が難しく50～60代が主になり行っている。
- ・町内の商店が閉店し買い物に困っている。特に高齢者は不安に感じている。
- ・高齢者の自動車運転の事故も多くなっている（どこに行くにも車が必要で運転をされる）。
- ・特に山間部では空き家が多くなり、手つかずの状態で残っている所も多い。

地域のこれから

- ・行政区長、民生委員、また福祉委員と情報の共有を行いながら、見守り活動を行い、必要に応じてのサービスにつなげていくことが必要である。
- ・気軽に集まれる場所が少なくなり、高齢者の閉じこもり予防のためにも、仲良しだけで行うサロン活動や地域の活動をバックアップして出来る取り組みを考えていく必要がある。



矢部地域

人口： 1,222 人 (534 世帯)

・ 65 歳以上 626 人

(うち一人暮らし 164 世帯)

・ 18 歳以上 65 歳未満 452 人

・ 18 歳未満 144 人

(平成 29 年 4 月現在)

ともに生き、支えあい、安心して暮らせる矢部村

1 ひと・資源

民生委員児童委員 12 名
主任児童委員 2 名

福祉委員 0 名
見守り連絡員 0 名
福祉部会 0 カ所
福祉ネットワーク 0 カ所
ふれあいサロン 16 カ所
福祉のつどい 0 カ所

行政区長 6 名
公民館長 6 名

公民館 15 カ所 (うち公営 1 カ所)
子育て拠点 0 カ所 (月 0 回開催)
避難施設 公設 23 カ所・私設 18 カ所
医療 病院 2 カ所・歯科 1 カ所
福祉事業所 7 カ所 (高 5 障 0 子 2)
社会福祉法人 1 法人

(平成 29 年 10 月現在)

3 地域懇談会から

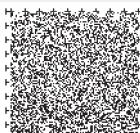
■ 地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 28 年 11 月 30 日 19 時～21 時 参加者：40 名

■ 地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- ・願立てや願成就などの村祭りを行っているが、地域の高齢化が進み、準備のしめ縄作りに苦労している。転出している子どもたちに呼びかけ帰省してもらう。
- ・八女津媛神社の「浮立」は 5 年に 1 回なので存続できている。無理なく頑張って、継続していく方向である。新しい考えを取り入れながら、人のつながりを一番に考えている。
- ・地区で行っているふれあいきいきサロンや老人クラブは、毎月実施し活気がある。
- ・家が集まっている集落で毎朝ラジオ体操を行っている。そのことが安否確認となっている。村の行事など近所同士で誘い合って行っている。村まつりも車で送迎したりしている。
- ・高齢者の中には、畑で作ったものを売ることが生きがいになったり、活力になったりする。また、自分でシールを貼ったり、詰めたりすることが認知症予防になると感じている。作物を運んでくれるような支援をしてくれる人がいればいいと思う。
- ・各地域とも、ふれあいきいきサロンを楽しみにしている。ふれあいも出来る。参加するのに車に乗ってくれる人がいればいいが、いない地区もある。
- ・一人暮らしの人が中には「一日誰にも会わないことがある」「寂しい」「一日が長い」と言われる人もいる。社協が移送サービスをしていることを知らない人が多い。制度の啓発も必要。



2 地域のとりくみ

■矢部地域づくり協議会（6支部）

○活動の拠点施設：矢部公民館

民生委員児童委員連絡協議会	老人クラブ連合会	体育協会矢部支部	社会福祉協議会矢部支所	
青少年健全育成会	NPO コスモネット	矢部小学校 PTA	矢部中学校 PTA	
消防団矢部支団	矢部公民館	矢部青年団	一般財団法人秘境桜の里	
山村留学推進会	保育園保護者会	有識経験者	各区協議会会長	各部会長

■矢部地域づくり計画

【平成 26 年 3 月】

基本方針	具体的な取り組み
I 村づくり部会 「ひと」「自然」を活かし、 村を元気に！	・「矢部まつり」等年中行事の開催（後援を含む） ・各種イベントの開催で地域活性化を図る ・男女共同参画の推進に取り組む ・伝統行事の保存や伝統文化の継承 ・地域特産物の掘り起こし ・観光資源の保全及び発掘 ・矢部村 PR 活動 ・山村留学の推進
II 文化・教育部会 やさしさと豊かさでひと づくり！	・「新成人の集い」式典の後援 ・「世界子ども愛樹祭コンクール」の後援 ・「公民館まつり」等イベントの開催（後援を含む） ・その他地域交流の場づくり ・各種体験教室、講習会の実施 ・子育て支援の充実
III 環境・安全部会 安心で安全に、暮らせる村 に！	・道路愛護・環境美化運動等のキャンペーンの開催 ・交通危険箇所の把握と改善 ・交通安全、防犯に関する講話・講習会の実施 ・防災・防火訓練の実施 ・道路関連施設（道路残地を利用した駐車場等）の整備 ・高齢者世帯への支援活動
IV スポーツ部会 楽しいことはみんなでや ろう！	・「矢部地区体育祭」の実施 ・「桜まつり健康マラソン大会」の後援 ・その他各スポーツ大会の実施（後援を含む） ・登山客に対するPR活動

地域を支える人の様子

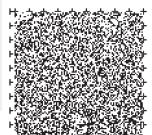
- ・民生委員として訪問する中で、物忘れの進行がみられるため認知症ではないかと思われるが、本人への伝え方に困っている。
- ・矢部村は隣近所のつきあいができやすい所。支援が必要な方を民生委員につなぎやすい。
- ・行政区でお助け隊を結成しているが、隊員が高齢になってきた。
- ・お助け隊ができて、区長と民生委員など横の連絡が出来るようになり、見守りが強くなった。

地域の課題

- ・矢部村では、車がないと不便。乗合タクシーは、利用者に大変喜ばれているとは思うが、休日の運行がないことで不満のある方もいる。土、日の行事に参加できない。
- ・空き家が多くなり、集落が寂しくなっている。矢部村出身者で家がなくになって、家を借りたいという人もたまに見かける。空き家を貸してくれる人の整理が必要。

地域のこれから

- ・認知症の人や介護度の軽い人の行くところがない。高齢化率が高い矢部村の1番の問題。だから、地域での助けあいがないと成り立たない。隣近所のちょっとした心遣い、地域の支えが必要となってくる。しかし、一番は、どんなに家族（子ども）が離れていても親を思う気持ちや心を持ってもらいたい。
- ・少人数でも集まり「元気ですよ」と言える場所をつくる。
- ・「桜の里」もでき、祭や行事の手伝いのために、村外の世話役を手伝ってくれる人が公民館に泊まって行事を手伝えるようにしてはどうか。空き家の活用も含め、村の企画として発信しては。



星野地域

人口： 2,606 人（1,030 世帯）

・65 歳以上 1,082 人

（うち一人暮らし 295 世帯）

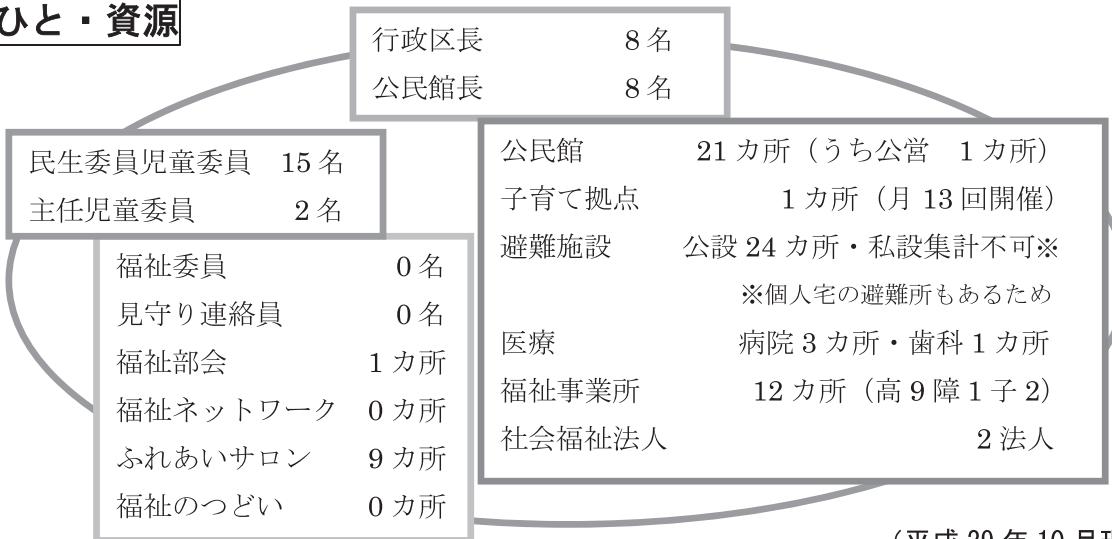
・18 歳以上 65 歳未満 1,233 人

・18 歳未満 291 人

（平成 29 年 4 月現在）

**地域住民の住み慣れた地域で共に助け合いながら、安心して生きがいをもって、
健やかに暮らせる豊かな生活の実現を目指します**

1 ひと・資源



（平成 29 年 10 月現在）

3 地域懇談会から

■ 地域懇談会の開催日時と参加者数

開催日時：平成 28 年 12 月 8 日 19 時～21 時 参加者：38 名

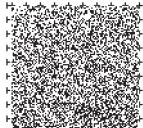
■ 地域懇談会で出された地域の様子・課題

地域や地域行事の様子

- ・はんや舞、河川公園の清掃作業、グラウンドゴルフ大会をして全員で懇親会。夏休みには子どもたちと一緒にラジオ体操に参加するようにしている。
- ・50 歳ぐらいの若い人が中心にスポーツ大会や鬼火焚きほたる祭りなどの活動を行っている。
- ・元旦の新年のあいさつ会が復活して各公民館で行っている。
- ・風流の後継者不足が問題。村外への転出者も多く、神社仏閣の世話も課題。
- ・子ども会の人数も減り、子ども会活動や資源回収がままならない。

地域を支える人の様子

- ・ふれあいきいきサロンではスタッフが野菜を持ち寄り、料理をふるまう。手間がかかるけど、一人暮らしの方に特に喜んでもらっている。サロンボランティアの跡継ぎ不足。男性参加者を増やすことも課題。
- ・民生委員として一人暮らしの方の家族の連絡先は聞いており、本人へ何かあったら遠方の家族へ連絡している。ただし、遠方の家族の対応に閉口することも。



2 地域のとりくみ

■星野地区まちづくり協議会（4支部）

○活動の拠点施設：地域交流センター

小野振興会	2支部、産業部、教育福祉部、文化交流部、生活環境部等
椋谷校区地域づくり振興会	4支部（行政区支部長、地域づくり支部長、女性部代表）
星野地区いきいき振興会	3区振興会、公民館部会、地域活性化部会、生活環境部会、教育健康福祉部会
上郷村	5支部（支部長、支館長、地域づくり委員、高齢者部、女性部、青壮年部）

■星野地域振興計画

【平成 26 年 4 月】

重点目標	主要施策
I 災害に強いまちづくりの推進	安心して暮らせるまちづくりを目指すため、九州北部豪雨災害における被災地の復興を最優先とし、住民協働による支援体制を確立します。また、防災対策を強化するため、地元消防団と自衛消防隊との連携を強化し、災害に強いまちづくりを目指します。
II 伝統文化の伝承	地区民の豊かな感性と情操を培い、潤いと安らぎのある生活を目指すため、芸術・文化の創造を高め、次世代への伝統文化を継承します。特に風流・はんや舞において、次世代の若者がふれあう機会を確保しながら、芸術・文化の創造を目指します。
III 定住対策の推進	子供のための未来づくりとして、過疎・高齢化が進む中で地域の資源を生かした魅力あるまちづくりを目指し、後継者育成、Uターン、Iターンの推進を図ります。特に八女市とうきは市を結ぶふれあいトンネル完成による新たな事業展開を目指します。
IV 代表的な観光資源の保全・活用の推進	本地区において、「日本で最も美しい連合」に加盟するなか、広内・上原地区の棚田やミヤシノ地区シャクナゲ園など星野村を代表する観光資源の保全運動を推進すると共に、集客アップ、所得アップのための取り組みを推進します。
V 地域住民が安心・安全に暮らせる地域づくりの推進	本地区は高齢化率 38% を超える少子・高齢化時代を迎えています。特に高齢者の日常生活の支援体制づくりをはじめ、生きがい・健康づくりによる優しく住みやすい地域づくりを目指します。
VI 都市との交流事業の推進	豊かな自然、伝統文化などいろいろな魅力ある財産を生かしながら、交流イベントを推進します。主な事業は次のとおりです。 ・シャクナゲ祭 ・新茶まつり ・夏祭り「よかつ祭」 ・池の山祭「風流・はんや舞」 ・星のまつり・九州和太鼓フェスティバル
VII 山村留学制度の支援	都会からの児童を 1 年間受け入れ、星の自然の家で集団生活しながら、地元小学校へ通学する制度です。特に新たな教育環境が期待され、少子化対策への期待も大きく、推進体制を強化します。
VIII 真名子ダム建設反対運動の推進	星野地区住民の生活を守り、豊かな自然、清流星野川を後世まで残すため、引き続き真名子ダム建設に反対します。

- ・区長になり、避難注意の声かけも大変。民生委員と連携しはじめ、自分が星野村にいないときにも対応してもらうことが出来て良かった。
- ・上郷村の取り組み。支部長が民生委員の活動を支援する体制を整えようと考えている。必要に応じて支部長や区長と一緒に訪問したり、連絡協議会で会合を持ったりしている。
- ・地域に NPO 法人 “がんばりよるよ星野村” があり、地域活動の協力や呼びかけをしてもらい助かっている。

地域の課題

- ・乗り合いタクシーと路線バスを利用する。しかし、路線バスの時間が合わず困る。
- ・買い物や受診など、高齢になった時の交通手段が心配。移動販売等も必要。
- ・地域の連携はとれているが高齢化している。お互い様の精神で行なうことが大切。
- ・空き家対策が課題。星野に住みたいとはよく聞くけれど、貸し出される家は少ない。

地域のこれから

- ・星野3区では4つの部に全ての住民を振り分けて、誰もが活動に関わる仕組みをつくった。（輪番制）
- ・隣近所で協力して活動をすることが、近所づきあいや集いの大事なきっかけになる。

